

活動テーマ

秩父市と豊島区の人的交流を促す地域情報マップの作製

秩父市全域 大正大学

1 活動目的

本活動の目的は、第一に、秩父市で展開されている既存の GMO 事業や関係人口創出事業と調和した、秩父地域の魅力を東京都へ情報発信することである。特に、秩父市と交通アクセスが良好な豊島区、板橋区、北区の住民をターゲットとする。

第二の目的は、東京都住民の秩父地域への興味関心を高め、関係人口の拡大や二地域居住も含む秩父地域における移住者の増加を図ることである。さらに、秩父地域の外部への魅力の発信だけでなく、秩父地域の住民の方々の魅力再発見にもつなげることも本活動の目的である。

2 活動地域の現状


埼玉県秩父市は総人口 59,674 人（2020 年現在）で、埼玉県西部に位置し、約 578 km²の埼玉県で最も面積が広い地域である。産業は卸売業・小売業が 21.4%と産業中心であり、宿泊業・飲食サービス業で 16.6%、建築業 14.1%と続き、この 3つの産業で 50%を占める。




秩父市の強みは、池袋駅と西武秩父駅を最速 77 分で結ぶ西武鉄道特急列車が日中でも 1 時間に 1 本の間隔で運行されており、都心からのアクセスが非常に優れていることである。また、秩父市を横断する秩父鉄道では祝日に SL『パレオエクスプレス』を運行しており、都心とのアクセス鉄道の役割を有す西武鉄道と合わせて強い観光需要を生み出している。


その他に、秩父市がアニメの舞台になっていることを活かして、秩父市内の施設やスポットが多く登場する作品とコラボレーションしていることもあり、秩父市は“観光地”として高い知名度を有していると言える。

一方で、人口減少率が 6.1%、老年人口の構成比が 34.3%となっており、他自治体と同様に、人口減少と高齢化が課題となっている。

3 活動内容

活動日	活動内容（訪問先）
4/28	<ul style="list-style-type: none">・ 秩父市役所 総合政策課・ ゆいま〜る花の木・ 秩父地域おもてなし観光公社  <p>本企画の概要や目的、意義を説明し、協力の依頼を行なった。また、秩父市ですで行われている移住支援などの取り組みについて話を伺った。</p> <p>（秩父市役所）</p>

5/28	<ul style="list-style-type: none"> ・茶摘み体験（とちもとプロジェクト） 	<p>秩父市の西部に位置する栃本地区で開催された茶摘み体験に参加した。茶摘みだけでなく、自然環境や食文化について調査した。</p> <p>（茶摘み体験：栃本地区）</p>
6/22	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区役所文化商工部文化観光課 	
8/12	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川商工会 ・道の駅あらかわ 	<p>秩父市の中部に位置する荒川地区で活動する基盤づくりとして、荒川商工会に訪問し、本企画の説明と協力依頼を行なった。また、調査の参考となる、荒川地区の歴史や文化についてお話を伺った。</p> <p>（荒川商工会）</p>
9/17～18	<p>ゼミ合宿（大学での取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩父ジオグラビティパーク ・カナディアンカヌークラブ ・PICA 秩父 	<p>荒川地区の自然を活かした観光の取り組みを調査した。浦山ダムの広大な自然を活かしたカナディアンカヌークラブを訪問し、自然観光の意義や理念を伺った。</p> <p>（カナディアンカヌー：浦山ダム）</p>
11/2	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父市役所市長室総合政策課 ・和空間多豆（ワーケーション施設の調査） 	
11/3	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川民俗資料館 ・三峰神社 	<p>「ちちぶまっぷ」の観光面の情報を収集するために、各地の資料館や歴史・文化的なスポットを訪問し、資料を収集した。</p>
11/28	<ul style="list-style-type: none"> ・浦山民俗資料館 	
12/3	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父夜祭 	
1/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ポテくま体操事業 ・吉田地区調査 	<p>「ちちぶまっぷ」で高齢者の暮らしに関するコラムページ作成のために取材を行なった。</p>
1/23	<ul style="list-style-type: none"> ・下郷児童館 ・かみたのこども園 ・秩父鉄道大野原駅周辺調査 	<p>「ちちぶまっぷ」で子育てに関するコラムページ作成のために取材を行なった。</p>
2/1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりフォーラムへの参加および参加者へのインタビュー 	

2/8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秩父市役所こども課/学校教育課  <p>秩父市の教育支援についてコラムページを執筆するためにインタビュー調査を行なった。 (秩父市役所)</p>
2/13	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークーション施設視察・インタビュー
2/19～20	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ合宿（ちちぶまっぷ作製のための最終調整） ・ 秩父フルーツファーム ・ 秩父まつり会館 ・ 羊山公園 ・ 武甲山資料館

4 成果

本活動の成果および成果物「ちちぶまっぷ」について以下に記述する。

まず、秩父市の観光面に関する調査では、本活動で繰り返し秩父市を訪れ、秩父市の自然、文化、歴史について知ることができた。また、1年間を通して秩父市を訪れたことで、四季折々の秩父市の姿を知り、もっと多くの人々に秩父市の魅力を知ってほしいと感じた。

次に、秩父市の暮らしや生活に関する調査では、子育て・教育・ワークーション・ICT・高齢者の暮らしについて調査することで、秩父市で取り込まれている生活に寄り添った活動や試みについて知ることができた。

本活動での体験やインタビュー調査から得た知見を活かし、それらの情報を整理した「ちちぶまっぷ」を成果物として作製した。観光面では秩父市の地区ごとの魅力について、地図を交えて紹介し、写真を多用することでイメージしやすいよう工夫した。また、生活面では子育て支援、教育支援、ワークーション施設、高齢者イベント、ICT活用といった切り口から秩父市の暮らしや生活の情報を紹介している。

この活動の中で、観光・子育て・教育・ICT・ワークーション・高齢者の暮らし・地図と、参加メンバー各人が多角的に秩父市を見つめることで、学生ならではの観点で秩父の魅力に迫ることができたのではないかと考える。



荒川地区紹介ページ (観光面)



コラムページ (生活面)

5 課題

秩父市での本活動を通じて、感じた地域課題について以下に記す。

まず、地域イベントの参加者・運営者の高齢化である。インタビュー調査の中でも運営者・参加者の高齢化がイベントを継続的に実施していく上での課題として挙げられていた。

次に、生活する上で車が必要不可欠な点である。市内を循環するバスの本数が少ないことやバスの通っていない居住地域がある点は解決すべき課題だろう。特に中山間地域では移動の制約があり、イベント会場が遠距離であると、中山間地域の人々は参加が困難となる可能性がある。

そして、中山間地域の人口減少もやはり課題と言えるだろう。人口減少は特に生活インフラに影響を及ぼすかもしれない。例えば、人口減少による医療の担い手不足に対して ICT を活用した医療体制から代替効果を生むことなど派生課題を解決できる部分もあるが、今後どのようにして ICT を活用した政策の情報を内外に発信していくのかも課題の1つとして挙げられるだろう。

本企画では、参加メンバーそれぞれの視点から秩父市の魅力を見出すための調査活動を行なったが、それらの調査を通じて秩父市が抱える課題をも部分的に見つけることができた。地域の生活を知ることは、地域の課題を発見するのにも役立つことを知った。

6 次年度以降の計画

次年度以降は、あまりターゲットを絞らずに秩父の魅力をPRする活動をしたい。具体的には「ちちぶまっぷ」デジタル版の作製、チラシ形式の「ちちぶまっぷ」概要版の作製および地域イベントへの参画である。

本企画では「ちちぶまっぷ」の冊子版を作成したが、それだけでなく「ちちぶまっぷ」デジタル版を作成し、インターネット上の発信によってより広くの様々な属性の人々に秩父市の魅力を伝えていきたい。第二に、冊子だけでなくチラシ1枚程度の簡易的な情報誌を作成し、掲示物や資料として発信したい。そして、第三に、2022年5月から参加している「秩父ファンクラブ」で告知される地域イベントに参画しながら継続的に秩父市と書か笑を持っていきたい。

今期の参加メンバーに限らず、後輩たちへの引き継ぎも並行して行なっていき、今期メンバーはサポートの形で活動を運営していきたい。

以上